

## 近 現 代 編

年 号	出 来 事
明治2 (1869)	9.15 東鉦切・神明社、再建され落慶する。(『神社明細帳 三浦郡』)
明治3 (1870)	この年、鉦切・正禅寺塾(森川祖証)が開かれる。(『田浦町誌』)
明治4 (1871)	<p>3. - 本浦塾(自得寺塾と慶蔵院塾を併合)を秋山長平宅に開く。大雅堂とも云い通学する者30名前後という。(『田浦町誌』『市教育史』)</p> <p>4. - 「相模国三浦郡浦郷村 平民族戸籍上」(名主高橋幸八、年寄田中善八)が作成される。(横須賀市史編さん室所蔵)</p> <p>5. - 本浦・慶蔵院(修験宗)、廃寺となり、住職は帰農する。(横須賀市所蔵文書)</p> <p>7. - 廃藩置県では神奈川県はそのまま存続し、同年11月の府県の統廃合では六浦県(金沢藩を六浦藩と改称、廃藩置県では六浦県となる)を合併して新置の神奈川県が成立する。(『県史』資料編10)</p> <p>この年、蒲谷又右衛門、鉦切で蒲谷新田の開発工事に着手する。(『土木史』)</p>
明治5 (1872)	<p>2. 1 戸籍法を施行。戸籍編成のため三浦郡を10区に分ち、浦之郷村、田浦村、長浦村、横須賀村及び逸見村他5か村は1区となる。名主、年寄の名称を廃し、戸長、副戸長に統一する。(『市史50』)</p> <p>8. - 「学制」「学事奨励に関する被仰出書」「小学教則」が出され、公教育が開始される。(『市史50』)</p> <p>11. - 神奈川県下に「筆学所」、すなわち寺子屋廃止の通知を出す。(『県教育史』)</p> <p>この年、①鷹取石の切出しが始まるという。(聞取調査)②「社寺領上知令」によって、浦之郷村各社寺より旧朱印地及び除地を政府に上知(返納)する。(横須賀市所蔵文書)</p>
明治6 (1873)	<p>4. - 「学制」(太政官布告)による「小学教則」の制定により、本浦塾を本浦学舎、正観寺塾を南浦学舎、正禅寺塾を北浦学舎と改称、開校する。(『田浦町誌』)</p> <p>4. - 「第拾五区壺番組相模国三浦郡浦郷村戸籍 全」が作成される。社寺数25、戸数391、人口2,202人とあり。この内、士族は僅か1戸である。(横須賀市所蔵文書)</p>

年 号	出 来 事
	<p>6. ー 雷神社、村社の社格が許可される。(『田浦町誌』)</p> <p>5. 1 神奈川県は町村区画を大幅に改正し、区番組制とする。このため浦之郷村、船越新田、田浦村、長浦村は第15区1番組となる。(『市史50』)</p> <p>7. ー 浦郷村各社寺より「社寺上知田畑山林御払下ケ願」が提出される。(横須賀市所蔵文書)</p> <p>8. ー 浦之郷村各寺院より「寄附什物其外取調帳」が戸長役場に提出される。(横須賀市所蔵文書)</p> <p>9.10 起源は不明であるが、この日三浦相撲が雷神社で開催され、例年この日に行われる。(『市体育史』)</p> <p>11. ー 浦郷村2番地の地藏堂が廃堂となり、仏像等は支配の自得寺へ移される。(横須賀市所蔵文書)</p>
<p>明治7 (1874)</p>	<p>4.15 本浦、北浦、南浦各学舎を廃止、自得寺を仮校舎として、名称を第1大学区第10中学区第55番小学本浦学舎と改称する。(『浦小沿革』)</p> <p>6.15 県は区番組制を廃止して、大区小区制を実施。このため浦之郷村、船越新田、田浦村、長浦村は第15大区第1小区となる。(『市史50』)</p> <p>7.11 村内各寺院より再び「寺院上知山林御払下願書」が提出される。(横須賀市所蔵文書)</p> <p>8. 4 日向・八王子社の社殿を再建する。(『田浦町誌』)</p> <p>この年、第15大区第1小区扱所(会所)を榎戸4,325番地(能永寺隣接)に新築し、浦郷・船越新田・田浦・長浦4か村の事務を取り扱う。(『皇国地誌』)</p>
<p>明治8 (1875)</p>	<p>8. 7 第15大区々長より「炎暑につき小学舎生徒を11日より25日迄休業とする」ことを通達する。(『新市史』資近現I) 小学校での夏休の先駆けか。</p> <p>9.20 浦郷、田浦、長浦各村連名で「火葬場新設願」を県令に提出する。(横須賀市所蔵文書)</p> <p>10. ー 第55番小学本浦学舎を第55番小学浦郷学校と改称する。(『田浦町誌』)</p>
<p>明治9 (1876)</p>	<p>1. 1 浦郷村の民戸数397、人口2,274人とある。(『浦郷村戸籍』)</p>

年 号	出 来 事																					
	<p>3.28 県令より「社寺無代御下ケ渡同払下ケ御達書」が通達され、第15大区会所は5月9日社寺に対し通知する。このため、雷神社、良心寺、自得寺、能永寺等の旧朱印地・除地が無代および有償で払い下げられる。(横須賀市所蔵文書)</p> <p>12. - 浦郷村大字別の戸数及び人員数。(『浦郷村戸籍』)</p> <table border="1" data-bbox="510 481 1114 782"> <thead> <tr> <th>字 名</th> <th>戸 数 (戸)</th> <th>人員数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本 浦</td> <td>1 0 7、社寺 1 0、</td> <td>6 2 7</td> </tr> <tr> <td>鉦 切</td> <td>1 4 5、社寺 5、</td> <td>8 5 7</td> </tr> <tr> <td>深 浦</td> <td>6 2、社寺 3、</td> <td>3 2 3</td> </tr> <tr> <td>榎 戸</td> <td>2 2、社寺 3、</td> <td>1 2 8</td> </tr> <tr> <td>日 向</td> <td>5 6、社寺 4、</td> <td>3 3 9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3 9 2、社寺 2 5、</td> <td>2, 2 7 4</td> </tr> </tbody> </table>	字 名	戸 数 (戸)	人員数 (人)	本 浦	1 0 7、社寺 1 0、	6 2 7	鉦 切	1 4 5、社寺 5、	8 5 7	深 浦	6 2、社寺 3、	3 2 3	榎 戸	2 2、社寺 3、	1 2 8	日 向	5 6、社寺 4、	3 3 9	計	3 9 2、社寺 2 5、	2, 2 7 4
字 名	戸 数 (戸)	人員数 (人)																				
本 浦	1 0 7、社寺 1 0、	6 2 7																				
鉦 切	1 4 5、社寺 5、	8 5 7																				
深 浦	6 2、社寺 3、	3 2 3																				
榎 戸	2 2、社寺 3、	1 2 8																				
日 向	5 6、社寺 4、	3 3 9																				
計	3 9 2、社寺 2 5、	2, 2 7 4																				
<p>明治10 (1877)</p>	<p>3. - 公立小学浦郷学校が狭溢につき、平田貢氏所有の本浦313番地に校舎を新築する。建物は東西13間、南北15間、面積186坪で、生徒は男76人、女66人、教員3名とある。(『皇国地誌残稿(三浦郡)』上巻、『浦小沿革』)</p> <p>3. - 浦郷村代表人高橋弥惣八等4町村から「神社合併伺」が県令に提出される。これには、浦郷村字天神の天神社(天文6年勧請)及び同村字湯屋ノ下の山ノ神社が同村雷神社に合併、同村東鉦切の稲荷社が同所神明社に合併、同村字大久保の諏訪社が同所八王子社に合併することが記される。(『新市史』資近現1)</p> <p>8.28 横須賀港近海西北夏島より東南猿島に至る海面を海軍港と定め、海軍省所管となる。(『太政類典』)</p> <p>9. - コレラが東京から全国に広がり、横浜での死者は600余名という。(『県史』資料編10)</p> <p>10. - 西南戦争に従軍した兵士が凱旋の途中コレラに罹り、浦郷字貉ヶ谷の仮病舎に収容、死亡者は48名を数えた(10.18～11.11)。(『新市史』別軍)</p> <p>12. - 西南戦争戦病者埋葬地として、陸軍省は鉦切地内の字矢濱(浦郷村3579番地)の3畝歩(90坪)を借用。翌11年4月該地を官有地として買収、陸軍省が管理することを太政官が許可する。(『新市史』別軍)</p>																					
<p>明治11 (1878)</p>	<p>5.30 浦郷村内の天神社、山ノ神社、稲荷社(2)、諏訪社の小5社が、雷神社等に合併する。(横須賀市所蔵文書)</p>																					

年 号	出 来 事
-----	-------

- 7.22 郡区町村編制法の公布により、大小区制は廃止され、浦郷村、船越新田、田浦村、長浦村となる。(『市史50』)
- 11.18 郡区町村編制法の施行で大小区制が廃止となり、第14大区と第15大区が合併して三浦郡となる。初代郡長に小川茂周が就任。(『市史50』)
- 11. - 「皇国地誌編輯例規」に基づき、浦郷村より『村誌』を県に提出する。(『皇国地誌残稿(三浦郡)』)
- 11. - 『神奈川県皇国地誌残稿』上巻の「相模国三浦郡浦郷村誌」によれば、田40町8反余、畑64町余、宅地13町4反余、山林240町9反余、塩田八反余という。なお、戸数、人口、船数は次のとおり。

戸 数					人 口		
民家	社	寺	学校	計	男	女	計
397	15	10	1	423	1,171	1,103	2,274
船							
荷船		押送船		漁船	伝馬船		計
17		25		205	16		263

<b>明治12</b> (1879)	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.13 「町村会規則」が発布され、戸数の多少に従い村会議員が選出される。(『市史50』)</li> <li>6.30 浦郷村戸長役場で『村中八ヶ寺院檀家取調帳』を作成する。(横須賀市所蔵)</li> <li>6. - 神奈川県が浦賀往還(横浜～浦賀)を仮県道に指定する。(『県史』資料編10)</li> <li>7. 1 浦郷村より「浦郷村火葬場設置願」が県令に提出される。候補地は字麴屋島2101番。(『新市史』資近現1)</li> <li>7.22 県令より内務卿に「三浦郡浦ノ郷へ避病院建築ノ儀ニ付上申」する。場所は「コウト」とあり字郷戸(ごうど)のことである。(『県史』資料編10)</li> <li>9. - 教育令(太政官布告40号)により大中小区制を廃止、町村別に小学校を設立。義務教育年限の制をたて、18か月(1年6カ月)を義務期間とする。(『市教育史』)</li> </ul>
-----------------------	---

年 号	出 来 事
	<p>11. ー 『神社明細帳（三浦郡）』（明治12年調）によれば、浦郷村字本浦・村社雷神社は境内313坪、氏子600戸。祠掌（神主）秋山長平とある。（若松町・諏訪神社所蔵）</p> <p>この年、①浦谷又右衛門が開発した浦谷新田が、一応完成。全体面積は3町3畝11歩（約3万平方尺）という。（『土木史』） ②全国でコレラが大流行し、患者数16万人以上、死者も10万人を超えたという。三浦半島でも多数の死者を数える。（『県史』資料編10）</p>
<p>明治13 (1880)</p>	<p>5. ー 夏島を官有地として陸軍省が買収。同島は鉦切の人たちの所有で、1反10円で全島1,800円で売却したという。（『田浦町誌』）</p> <p>6. ー 虎列刺病死者焼場（浦郷村火葬場）を字麴屋島（現・追浜東町）に設置した旨、三浦郡長に届ける。（横須賀市所蔵文書）</p> <p>8. ー 本浦地区大火で民家24戸を焼失する。この時、田中易金・平田貢・高橋幸八・高橋弥惣八、義捐金を差出し、県令より賞される。（『横賀』）</p> <p>10. 3 夜半、暴風雨で被害あり。小坪村では民家20戸余が流出するという。（『逗子年表』）</p> <p>10. ー 浦郷村字矢濱（黒崎）の西南戦争戦病者埋葬地は陸軍省が管理していたが、内務省に移管される。（『新市史』別軍）</p> <p>12.22 再び本浦地区大火に見舞われ、民家65戸を焼失、小学浦郷学校や法福寺なども類焼する。学校は深浦・坂中観音寺に移転する。（『浦小沿革』『法福寺誌』『横賀』）</p> <p>12. ー 教育令改正（太政官布告59号）により、義務教育年限を3か年に延長する。（『市教育史』）</p>
<p>明治14 (1881)</p>	<p>1. ー 校舎焼失のため、小学浦郷学校を深浦・観音寺で開校する。建坪18坪。しかし、児童を収容しきれず、鉦切だけ独立して正禅寺を校舎としたという。（『追浜とその付近』）</p> <p>7. ー 浦郷村日向の三縄重左エ門外6名、海難事故における人命救助の功により、県令より賞賜金を授与される。（『横賀』）</p> <p>8. ー 浦郷村等7か村、漕桂網禁止の願を県令宛て提出する。（『新市史』資近現I）</p> <p>この年、浦郷村に8反1畝28歩の塩田が存在した。（横須賀市所蔵文書）</p>
<p>明治15 (1882)</p>	<p>1. ー 本浦・法福寺本堂焼失のため、沼間・海宝院の講学所の建物を移築、上棟式を挙げる。（『法福寺誌』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>9. - 第55番小学浦郷学校は村立浦郷学校と改称する。(『浦小沿革』)</p> <p>この頃、本浦・旧名主家高橋清光、本格的に鷹取石の切出しを行う。(聞取調査)</p>
<p>明治16 (1883)</p>	<p>3.26 浦郷村等7か村、再び県令宛て漕桂網漁業御禁止願を提出する。(『新市史』資近現代I)</p> <p>7. - 雷神社社殿を新築する。同時に境内を拡張し、社殿を下段より中腹の現在地に移す(浦郷字本浦303番地)。(『田浦町誌』)旧社殿は金沢の洲崎に移されたという。(『追浜とその付近』)</p> <p>11. - 深浦・大国主社の社殿を再建する。(『田浦町誌』)</p> <p>この年、浦郷村戸長より県令宛て『浦郷村字地誌』(字地書上)を提出する。(横須賀市所蔵)</p>
<p>明治17 (1884)</p>	<p>7. 5 浦郷村、船越新田、田浦村、長浦村4か村の連合戸長役場が船越新田に設置される。戸長に渡辺富太郎(榎戸)就任。(『横須賀の町名』)</p> <p>9.15 大暴風雨で三浦半島地区は家屋の全半壊など被害甚大という。(『逗子市誌』5)</p> <p>11.9 暴風雨により、逗子・田越橋が流出するという。(『逗子市誌』5)</p>
<p>明治19 (1886)</p>	<p>4. - 小学校の義務教育年限が4か年となる。(『市教育史』)</p> <p>5. - 「梅田坂新道開鑿願」(発起人渡辺富太郎外5名)が、県知事あて提出される。(旧田川家文書)</p> <p>5. 5 浦郷村日向字大久保にトンネル工事が着手される(梅田トンネル)。(旧田川家文書)</p> <p>7. - 全国的にコレラが発生、県下の死亡者4,176人に上り、全国では10万8千余人という。(『県史』資料編)</p>
<p>明治20 (1887)</p>	<p>2. - 伊藤博文、陸軍用地である夏島に別荘の建築を始める。建築費約1,600円という。(『三浦古文化』第5号)</p> <p>3. - 地元民によって梅田トンネル(浦郷町1丁目・船越町間)が開通する。総工費1,552円73銭という。(『田浦町誌』・『浦郷村郷土誌』他)</p> <p>6. - 伊藤博文の別荘が夏島に完成。伊東巳代治、金子堅太郎、井上毅らと、憲法草案の起草・審議を行う。(『三浦古文化』第5号)</p>

年 号	出 来 事
	<p>7. 8 法令によって国道45号（東京～横須賀鎮守府）が制定され、村内に通ずる旧浦賀道が国道となる。（『市史50』）</p> <p>11.19 浦郷村外3か村組合立で尋常高等併置の船越小学校が創設され、浦郷村の高等科進学の子供たちは、以後昭和11年3月までここに通った。（『田浦町誌』）</p> <p>この年、吉倉運輸組によって吉倉・榎戸間の渡船が開業する。所用時間は約40分で3人乗合で片道6銭という。（『市史50』）</p>
<p>明治21 (1888)</p>	<p>2.10 伊藤博文、憲法草案の審議を再び行うという。（『三浦古文化』5）</p> <p>4. 1 村立浦郷学校は、公立浦郷学校と改称する。（『浦小沿革』）</p> <p>8.14 陸軍による夏島砲台の築造工事が始まる。翌日笹山砲台（深浦）も着工する。（『三浦半島城郭史』下）</p> <p>12.10 公立浦郷学校、浦郷字神応（稲荷谷戸・追浜東町）に校舎新築落成、開校式を挙げる。建坪99.5坪、運動場396坪。新築校舎へ移転のため観音寺仮校舎を廃止。（『浦小沿革』）</p>
<p>明治22 (1889)</p>	<p>1. 5 伊藤博文、秘書官伊東巳代治を伴い、夏島の別荘に滞在する（2週間の滞留という）。（東京日日新聞）</p> <p>1. ー 公立浦郷学校、神応校舎で授業を始める。（『浦小沿革』）</p> <p>4. 1 「町村制」施行され、浦郷村、船越新田、田浦村及び長浦村が合併して「浦郷村」となり、「旧浦郷村」は「浦郷村大字浦郷」となる。村役場は船越に開設、永島忠胤初代村長に就任。村会が開かれる。（『市史50』）</p> <p>8.20 笹山砲台が竣工する。備砲は同26年10月24 糶加農砲4門据付を完了。（『三浦半島城郭史』）</p> <p>11.14 夏島砲台（夏島町）が竣工する。同25年12月24 糶白砲6門据付竣工。（『三浦半島城郭史』）</p> <p>12.28 伊藤博文、夏島別荘を小田原城の程近い辺り（小田原市緑1丁目8番地）に移す。（『明治小田原町誌』中）</p>
<p>明治25 (1892)</p>	<p>3. ー 蒲谷新田の開発者蒲谷又右衛門死去。享年70歳（正禅寺墓碑）。</p> <p>4. ー 公立浦郷学校で女子のため裁縫科を付設する。（『浦小沿革』）</p>
<p>明治26 (1893)</p>	<p>2. ー 公立浦郷学校は小学校令の改正により、神奈川県三浦郡浦郷村立尋常浦郷小学校と改称する。（『浦小沿革』）</p>

年 号	出 来 事
	この年の 暮、鉾切地区で仲町から出火した大火で、91戸を焼失するという。 (『浦郷村の今昔』)
明治27 (1894)	<p>1. - 村井弦斉、『桜の御所』(春陽堂刊)を執筆、浦郷・天神山麓での三浦道寸と楽岩寺種久との架空合戦を小説として記す。(左書奥付)</p> <p>6. 1 浦郷4566番地(浦郷町1丁目)に日向巡査駐在所が設置される。(『田浦町誌』)</p> <p>8.26 石渡磯右衛門の名で、浦郷沿岸から横浜沖合の中の瀬間の漁業許可を求めた「横須賀軍港出入願」が横須賀鎮守府に提出される。(『横賀』)</p> <p>この年、浦郷村に消防組が設置される。(『横賀』)</p>
明治28 (1895)	<p>2. 8 浦郷(東鉾切)より出火、民家11軒および神明社社殿を全焼する。(『神奈川県公報』『神社明細帳』)</p> <p>2. - 尋常浦郷小学校、中野健明県知事より樟樹を頒布される。(『浦小沿革』)</p> <p>11. - 横浜停車場を起点として、久良岐郡・三浦郡にわたる相海鉄道敷設に関する起業目論見及び発起趣旨が発表される。(『新市史』資近現II)</p>
明治29 (1896)	<p>2. - 小説家田山花袋、浦郷村に姪の神田あいを訪ねる。のち、「こもり江」「島の心中」に反映する。(『田山花袋研究』)</p> <p>8. - 『相模百景』(折井愚哉編)が刊行される。夏島、烏帽子島辺で潮干狩をする風景画を載せる。(著言日付)</p>
明治30 (1897)	8.17 浦郷村田中易金、高橋清光の兩人、神奈川県知事あて「水面埋立地願」を提出する。その内容は浦郷字本浦水面および同字山ノ脇水面の埋立で、面積は合計で2万5,395坪9合であった。翌31年3月に許可の見通し。(国立公文書館蔵)
明治31 (1898)	<p>5.20 浦郷村戸長や村長を歴任した渡辺富太郎(榎戸)が死去する。享年51歳。(『田浦町誌』)</p> <p>5. - 鷹取山石材採取の創始者と伝える高橋清光が死去。享年37歳(良心寺)。(墓碑銘)</p> <p>この年、①浦郷村立尋常浦郷小学校は学級4、在籍児童数276人(男139、女137)とある。(『浦小沿革』)②外科医斎藤研精が村医として日向の八王子神社下に開院する。(『追浜とその付近』)</p>



年 号	出 来 事
明治32 (1899)	<p>5. ー 本浦出身の力士谷の川（本名鈴木安蔵、本浦1289番地・鈴木伊右衛門の次男）が夏場所で大幕、のち前頭2枚目まで昇る。相撲界全盛期に手取り力士として妙技を振るったが、惜しくも怪我で明治41年1月場所で引退、39歳であった。年寄荒汐を継ぐ。（『市博研（人文）』5、『追浜とその付近』）</p> <p>7.15 政府は軍機保護法及び要塞地帯法を公布。浦郷村全域が要塞地帯に含まれる。（『官報』）</p> <p>10. 7 暴風雨により被害あり。（『横買』）</p> <p>この年、①榎戸・能永寺山門が改修される。（『新市史』別文） ②この頃、海堡構築のため深浦の山や本浦の天神山を掘り崩すという。（『追浜とその付近』）</p>
明治33 (1900)	<p>9.30 東鉦切の源範頼伝説による戯曲「鎌倉山蒲桜重咲」が東京明治座で公演される。竹柴其水作、出演市川左団次、市川権十郎他。（『続々歌舞伎年代記』）</p> <p>12. ー 尋常浦郷小学校、県知事より楠苗を受領する。（『教育年表』明）</p>
明治34 (1901)	<p>1.15 東鉦切の源範頼伝説による戯曲「蒲冠者後日聞書」「祖先光輝磨鉦切」が明治座で公演される。（『続々歌舞伎年代記』）</p>
明治35 (1902)	<p>6. ー 榎戸・正観寺、薬師堂が石造に改築され落慶する。大工棟梁は中西浦村秋谷の村田伊之助、石工は瀬ヶ崎相川嘉平という。（正観寺棟札銘）</p>
明治36 (1903)	<p>4. ー 田川精米所（田川平三郎・浦郷4568番地）を創業する。（『新市史』資近現Ⅲ）</p> <p>9.10 雷神社で三浦相撲が興行される。三浦相撲は毎年定期的に三浦半島の10か所で実施され、雷神社もこの月日に催される。（『県体育史』）</p> <p>10. 1 2日まで三浦半島に暴風雨があり、横須賀線が不通となり、鎌倉三崎方面で崖崩れ、死者42人という。（『横買』）</p>
明治37 (1904)	<p>7.26 浦郷村船越尋常高等小学校高等科生徒、受持ち教師の専横に抗議して同盟退校。当時、浦郷地区からも高等科進学の子は船越尋常高等小学校に通学していた。（『買新』）</p>
明治38 (1905)	<p>4. 3 横須賀平民舎の救世軍兵士が浦郷村で講演会を開催する。平民舎は横須賀と浦郷の有志20余名で組織する。（『直言』）</p>

年 号	出 来 事
	<p>4. - 筒井トンネル(追浜東町1丁目・浦郷町2丁目間)が竣工する。(『田浦町誌』)</p> <p>この年、浦郷村(浦郷、船越、田浦、長浦)の戸数1,350、人口8,588人という。</p>
<p>明治39 (1906)</p>	<p>10. - 尋常浦郷小学校に実業補習学校を付設する。(『田浦町誌』)</p>
<p>明治40 (1907)</p>	<p>3. - 小学校の義務教育年限の4か年を6か年に延長する。(『市教育史』)</p> <p>6. 1 本浦(浦郷1231番地)に巡査駐在所が設置される。(『田浦警察署史』)</p>
<p>明治41 (1908)</p>	<p>4.26 浦郷村戸長や村長、県議員を歴任した田中易金(本浦)が死去。享年67歳(法福寺墓碑)。</p> <p>7.22 『三浦繁盛記』(岡田緑風著)が発刊され、日向の料理屋恵比寿屋のさくが公正新聞募集の美人投票で当選した記事が載る。恵比寿屋は榎戸の料亭叶屋とともに江戸時代からの老舗である。</p>
<p>明治42 (1909)</p>	<p>4. - 尋常浦郷小学校の在籍児童数454人という。(『浦小沿革』) この年、尋常科が6か年制となる。(『市教育史』)</p> <p>10.14 横須賀田戸の料亭小松で浦郷村を中心とする横須賀・金沢及び横浜間の電気鉄道敷設について、有志の協議が行われる。(『新市史』資近現Ⅱ)</p> <p>この年、水産講習所(後の東京水産大学)教授の妹尾秀実が室の木沿海で牡蠣養殖の試験場を設立し、実習を行う。(『牡蠣礼讃』)</p>
<p>明治43 (1910)</p>	<p>2.28 浦郷村会、全会一致で町制を可決する。(『新市史』資近現Ⅱ)</p> <p>3.12 浦郷村会での町制問題で長浦町派と浦郷町派に分かれ、紛糾混乱し血雨を見る形勢と報道される。(『横賀』)</p> <p>10. - 尋常浦郷小学校附属の実業補習学校が休止となる。(『田浦町誌』)</p> <p>12. - 特設電話が開通する。翌44年12月の「村内加入者凡10名あり」という。(『浦郷村郷土誌』)</p> <p>この年、①海軍水上機練習所として、追浜海岸一帯が海軍に接収され、その地先の公有水面の埋立てが承認される。②浦郷村(浦郷・船越・田浦・長浦)の戸数2,446、人口1万3,860人、船越の兵器廠職工数約4,000人という。(『浦郷村郷土誌』)</p>

年 号	出 来 事																					
明治44 (1911)	<p>4. 1 共楽園（田川公園・約3,600坪）が、日向に開園する（田川平三郎経営）。共楽園の命名は当時の県知事周布浩平で、園内には巖谷小波の句碑が建つ。（『田浦町誌』・『回想』）</p> <p>4. 3 浦郷村日向青年団、共楽園（田川公園）で青年団の発会式を挙げる。（『横買』）</p> <p>6.18 暴風雨のため、被害あり。逗子では小学校が倒壊する。（『横買』）</p> <p>6.23 浦郷青年会、尋常浦郷小学校で講話大会を開催する。（『横買』）</p> <p>7.26 前日からの暴風雨による高潮で浦郷村本浦の海岸堤防決壊、140戸の住宅が浸水、家屋・農産物に被害が出る。（『横買』）</p> <p>8. - 浦郷・鷹取山の土工300余人、賃上げを要求。3割増給を獲得する。（『民主運動史』）</p> <p>9. 8 浦郷・鷹取山の石材運搬船夫、10%増給を要求してストライキに入る。（『民主運動史』）</p> <p>12. - 『三浦郡浦郷村郷土誌』（孔版）が発行される。浦郷の記録によると、明治43年の各字の戸数・人口は下記の通りである。（東京大学史料編纂所蔵）</p> <table border="1" data-bbox="491 1000 1096 1306"> <thead> <tr> <th></th> <th>戸 数</th> <th>人 口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本 浦</td> <td>1 6 7</td> <td>1, 1 7 1</td> </tr> <tr> <td>鉞 切</td> <td>2 1 7</td> <td>1, 3 1 3</td> </tr> <tr> <td>深 浦</td> <td>1 1 7</td> <td>6 7 3</td> </tr> <tr> <td>榎 戸</td> <td>1 6 1</td> <td>9 2 2</td> </tr> <tr> <td>日 向</td> <td>1 2 6</td> <td>7 1 8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7 8 8</td> <td>4, 7 9 7</td> </tr> </tbody> </table> <p>この『浦郷村郷土誌』下巻の漁獲動物（魚類）の記事のなかに、「かき（牡蠣）は近年養殖場を設けて盛んに増殖を図れり」、との記事あり。</p> <p>この年、①深浦・亀島周辺一帯が海軍によって買収され、横須賀海軍建築部深浦出張所が開設される。（『田浦町誌』）②水産講習所（東京水産大学）が夏島の西岸浅瀬に養蠣場を設け、牡蠣の養殖を行う。（『牡蠣礼讃』）</p>		戸 数	人 口	本 浦	1 6 7	1, 1 7 1	鉞 切	2 1 7	1, 3 1 3	深 浦	1 1 7	6 7 3	榎 戸	1 6 1	9 2 2	日 向	1 2 6	7 1 8	計	7 8 8	4, 7 9 7
	戸 数	人 口																				
本 浦	1 6 7	1, 1 7 1																				
鉞 切	2 1 7	1, 3 1 3																				
深 浦	1 1 7	6 7 3																				
榎 戸	1 6 1	9 2 2																				
日 向	1 2 6	7 1 8																				
計	7 8 8	4, 7 9 7																				

年 号	出 来 事
明治45 (1912)	<p>2. ー 追浜トンネル（浦郷町3丁目・浦郷町5丁目間）が竣工する。当初は「鉦切トンネル」と称したが、昭和8年に改修された際、追浜トンネルと改称される。（『横買』）</p> <p>3. 7 飛行場用地拡張のため、海軍は夏島地先公有水面79,244坪の埋立申請を県知事あて行う。以来この地先の入り江は、20数回にわたり埋立が行われる。（『横買』）</p> <p>3. ー 浦郷村鉦切、久良岐郡野島村、六浦荘の漁民、海軍築港部による浦郷村深浦と鉦切間の築港と、深浦前面烏帽子岩および夏島間の海面1万坪の埋立は、漁船が航路を失うため沿岸に一道の航通路を残すよう海軍省に陳情することを協議する。（『市史80』別）</p> <p>6. 8 尋常浦郷小学校、字清水2320番地（現在地）に校舎新築、開校式を挙げる。校舎163坪、運動場1,377坪、建築費5,490円。この日を創立記念日とする。（『浦小沿革』）</p> <p>6.26 海軍航空術研究委員会が設立され、事務所を田浦水雷団に置かれる。（『航空史』）</p>
大正元 (1912)	<p>8.22 浦郷村で野犬により8人が咬傷を負う。（『横買』）</p> <p>9.30 追浜での航空術研究のための格納庫及び事務所が竣工する。「木造堀建荒木造」の平家建で、建坪245坪、工費7,130円であった。（『海軍営繕研』）</p> <p>10. 9 米国製複式水上飛行機2機、追浜の水上飛行機航空術研究所に到着する。（『横買』）</p> <p>10.20 尋常浦郷小学校附属実業補習学校、子守の女子なども通学できるよう夜間授業の特殊部を設置する。（『市教育史』）</p> <p>10.21 海軍航空術研究委員会は追浜に南北600メートル、東西200メートルの地積を整理して機体格納庫1棟、海岸に滑走台を造る。追浜飛行場の誕生である。（『航空史』）</p> <p>10. ー 尋常浦郷小学校付設の実業補習学校を再開する。（『浦小沿革』）</p> <p>11. 2 追浜飛行場で河野三吉大尉ら、新着のカーチス式水上機で初めて試乗飛揚に成功する。日本海軍初の飛行であった。（『航空史』）</p> <p>11. 5 金子養三大尉操縦のファルマン式水上機の飛行に成功する。（『航空史』）</p> <p>11. 8 横須賀市及び三浦郡内にコレラ発生のため、市内の魚問屋や魚商らに鮮魚販売禁止通告（『横買』）</p>